【様式１】

鉱煙発生施設（設置・変更）について

|  |  |
| --- | --- |
|  １．鉱煙発生施設の種類 |  |
|  ２．鉱煙発生施設の構造 |  別紙１－（１）のとおり |
|  ３．鉱煙発生施設の使用の方法 |  別紙１－（２）のとおり |
|  ４．鉱煙の処理の方法 |  別紙１－（３）のとおり |

備考

１　鉱煙発生施設の種類の欄には、大気汚染防止法施行令（昭和４３年政令第３２９号）別表第１に掲げる項番号及び名称を記載すること。

２　変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。

３　次の事項を記載した書類を添付すること。

（１）鉱煙の排出の方法

（２）鉱煙発生施設及び鉱煙処理施設の設置場所

（３）鉱煙の発生及び鉱煙の処理に係る操業の系統の概要

（４）煙道に排出ガスの測定箇所が設けられている場合は、その場所

（５）緊急連絡用の電話番号その他緊急時における連絡方法

４　別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格Ａ４とすること。

別紙１－（１）

鉱煙発生施設の構造

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  鉱山等における施設番号 |  |  |
|  名称及び型式 |  |  |
|  設置年月日 |  　 年　　月　　日 |  　　年　　月　　日 |
|  工事着手予定年月日 |  　　年　　月　　日 |  　　年　　月　　日 |
|  使用開始予定年月日 |  　　年　　月　　日 |  　　年　　月　　日 |
|  規模 |  伝熱面積（ｍ２） |  |  |
|  燃料の燃焼能力（重油換算/ｈ） |  |  |
|  原料の処理能力（ｔ/ｈ） |  |  |
|  火格子面積又は羽口面断面積（ｍ２） |  |  |
|  変圧器の定格容量（kVA） |  |  |
|  触媒に付着する炭素の燃焼能力（kg/ｈ） |  |  |
|  焼却能力（kg/ｈ） |  |  |
|  乾燥施設の容量（ｍ３） |  |  |
|  電流容量（kA） |  |  |
|  ポンプの動力（kW） |  |  |
|  合成・漂白・濃縮能力（kg/ｈ） |  |  |

備考

１　設置届出の場合には工事着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、工事着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

２　規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第１の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。

３　鉱煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格Ａ４の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

別紙１－（２）

鉱煙発生施設の使用の方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  鉱山等における施設番号 |  |  |
|  使用状況 |  １日当たりの使用時間及び月使用日数等 |  　　 時～　　　　時 　時間/回 　回/　　日/月 |  　　 時～　　　　時 　時間/回　 回/日 　日/月 |
|  季節変動 |  |  |
|  原材料（鉱煙 の発生に影響 のあるものに 限る 。） |  種類 |  |  |
|  使用割合 |  |  |
|  原材料中の成分割合（％） |  硫黄分 カドミウム分 | 鉛　分弗素分 |  硫黄分 カドミウム分 | 鉛　分弗素分 |
|  １日の使用量 |  |  |
|  燃料又は電力 |  種類 |  |  |
|  燃料中の成分割合（％） |  灰分 | 硫黄分 |  窒素分 |  灰分 |  硫黄分 | 窒素分 |
|  発熱量 |  |  |
|  通常の使用量 |  |  |
|  混焼割合 |  |  |
|  排出ガス量 （Nｍ３/ｈ） |  湿り |  最大 |  通常 |  最大 |  通常 |
|  乾き |  最大 |  通常 |  最大 |  通常 |
|  排出ガス温度（℃） |  |  |
|  排出ガス中の酸素濃度（％） |  |  |
|  鉱煙の濃度 |  ばいじん（ｇ/Nm３） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  硫黄酸化物（容量比ppm） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  カドミウム及びその化合物（mg/Nm３） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  塩素（mg/Nm３） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  塩化水素（mg/Nm３） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  弗素､弗化水素及び弗化珪素（mg/Nm ３） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  鉛及びその化合物（mg/Nm３） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  窒素酸化物（容量比ppm） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  鉱煙量 |  硫黄酸化物（Nm３/h） |  最大　　　　通常 |  最大　　　　通常 |
|  参考事項 |  |

備考

１　原材料中の成分割合（％）の欄及び燃料中の成分割合（％）の欄の記載に当たっては、重量比％又は容量比％の別を明らかにすること。

２　鉱煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。

３　鉱煙の濃度は、鉱煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。

４　参考事項の欄には、鉱煙の排出状況に著しい変動がある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用（専ら非常時において用いられるものをいう。）の別を明らかにすること。

別紙１－（３）

鉱煙の処理の方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  鉱山等における施設番号 |  |  |
|  処理に係る鉱山等における施設番号 |  |  |
|  鉱煙処理施設の種類、名称及び型式 |  |  |
|  設置年月日 |  　年　　月　　日 |  　年　　月　　日 |
|  工事着手予定年月日 |  　年　　月　　日 |  　年　　月　　日 |
|  使用開始予定年月日 |  　年　　月　　日 |  　 年　　月　　日 |
|  処理 能力 |  排出ガス量（Nm３/ｈ） |  最　大 |  |  |
|  通　常 |  |  |
|  排出ガス温度（℃） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  鉱煙の 濃 度 |  ばいじん（ｇ/Nm３） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  硫黄酸化物（容量比ppm） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  カドミウム及びその化合物（mg/Nm３） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  塩素（mg/Nm３） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  塩化水素（mg/Nm３） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  弗素､弗化水素及び弗化珪素(mg/Nm ３） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  鉛及びその化合物（mg/Nm３） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  窒素酸化物（容量比ppm） |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  鉱煙量 |  硫黄酸化物 （Nm３/ｈ） |  最大 |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  通常 |  処理前 |  |  |
|  処理後 |  |  |
|  捕　集 効 率 （％） |  ばいじん |  |  |
|  硫黄酸化物 |  |  |
|  カドミウム及びその化合物 |  |  |
|  塩素 |  |  |
|  塩化水素 |  |  |
|  弗素、弗化水素及び弗化珪素 |  |  |
|  鉛及びその化合物 |  |  |
|  窒素酸化物 |  |  |
|  使用状況 |  １日の使用時間及び月使用日数等 |  時～　　　　時 時間/回 回/日 日/月 |  　時～　　　　時 時間/回 回/日 日/月 |
|  季節変動 |  |  |
|  排出口の実高さＨo（ｍ） |  |  |
|  補正された排出口の高さＨe（ｍ） |  |  |
|  排出速度（ｍ/ｓ） |  |  |

備考

１　設置届出の場合には工事着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、工事着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。

２　鉱煙の濃度は、乾きガス中の濃度とする。

３　補正された排出口の高さHeは、大気汚染防止法施行規則（昭和４６年厚生省・通商産業省令第１号）第３条第２項の算式により算定すること。

４　鉱煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添付すること。

５　処理能力については、計算値又は設計値を記載し、計算式を添付すること。